

## シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	1学年	衛生管理	必修	40	1.3		講義	演習	実習実技
							○		
授業の概要	公衆衛生の意義、予防衛生、保健衛生、環境衛生、特に美容業務上で必要不可欠な衛生知識などについてテキストに沿って教授すると共に、その時点における社会の動きなどについても教授する								
学習的	公衆衛生関係の社会常識、特に最新の情勢についての知識を習得								
教科書	日本理容美容教育センター「衛生管理」								

## 授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	公衆衛生の概要	公衆衛生の意義を学び、我が国の公衆衛生を知る。	
第2回	公衆衛生の具体的な課題と領域	公衆衛生を知り、出生率、死亡率、乳児死亡率、平均寿命。	
第3回	理容師・美容師と公衆衛生	歴史にみる理容美容と公衆衛生。保健所の役割を知る。	
第4回	予防医学と保健	予防医学の目的と意義を知る。母子保健と統計について学ぶ。	
第5回	成人、高齢者保険	生活習慣病とその対策を知り、健康日本21の概要を理解させる。	
第6回	医療介護の制度	日本の医療、保険制度について理解する。	
第7回	環境衛生を学習する目的	環境の自然や人々の健康に及ぼす影響を知る。	
第8回	環境衛生	家庭、学校、事業所、営業施設、公共団体による公衆衛生。	
第9回	空気、水、日光	空気、温度、湿度、気流、水と健康。	
第10回	住居の衛生	採光、照明、換気の役割を知る。上下水道と廃棄物を理解する。	
第11回	衛生害虫とネズミ	衛生害虫の被害や駆除の方法を知る。公害についての理解を深める。	
第12回	理容所・美容所の環境衛生	不特定多数が入り出す環境を知り、管理能力を高める。	
第13回	実習室の衛生状態を確認	温度、湿度、換気、照明、器具類の管理。	
第14回	感染症の総論	感染症の発見や人物を理解する。	
第15回	感染症と法律	感染症の制定や分類を学ぶ。	
第16回	感染症を学習する目的	客、従業員を通しての感染症伝播の危険性を知る。	
第17回	感染症の種類	感染症の3つの分類を知り、感染症の種類を覚える。	
第18回	病原微生物	病原微生物の種類と形と大きさ構造を知る。	
第19回	微生物の増殖と環境の影響	細菌の増殖と環境の影響を理解する。	
第20回	感染症の予防	微生物の病原性と汚染、感染及び発病について学ぶ。	

到達目標	・ 理容師・美容師国家試験(衛生管理)合格レベルの知識習得 ・ 理容師・美容師の社会的責任・職業倫理への理解
成績評価	期末試験 単位認定60点以上
備考	

## シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	1学年	保健	必修	40	1.3		講義	演習	実習実技
							○		
授業の概要	人体の構造(解剖学)と機能(生理学)について具体的な知識を持つ								
学習的	人体の構造、機能に関する科学的系統的知識を理容・美容技術と関連づけて学ばせる								
教科書	日本理容美容教育センター「保健」								

授業計画			
回	主題	授業内容	備考
第1回	頭部、顔部、頸部の体表解剖学	人体各部の名所	
第2回		頭部、顔部、頸部の体表解剖学	
第3回	骨格器系	骨の種類と構造／骨の連結	
第4回		骨格器系とそのはたらき	
第5回	筋系	筋の種類とその特徴	
		表情筋と表情運動	
第6回	神経系	神経系の成り立ち	
		中枢神経とそのはたらき／末梢神経とそのはたらき	
第7回	感覚器系	視覚、聴覚、平衡感覚	
第8回		味覚、嗅覚	
		皮膚感覚	
第9回	血液・循環器系	血液のあらまし	
第10回		血液循環の仕組み／血液の循環経路	
		心臓と血管のはたらき／リンパ管系の仕組みとはたらき	
第11回	呼吸器系	呼吸器系のあらまし／気道	
		肺の仕組みとガス交換／呼吸運動	
第12回	消化器系	消化器系のあらまし／気道	
		肺の仕組みとガス交換／呼吸運動	
第13回	皮膚の構造	皮膚の表面／皮膚の断面	
		表皮	
		表皮と真皮の境／真皮	
第15回		皮下組織／皮膚の部位差	
第16回	皮膚付属器官の構造	毛／脂腺	
		汗腺／爪	
第17回	皮膚の循環器系と神経系	皮膚の血管	
		皮膚のリンパ管／皮膚の神経	

第18回	皮膚と皮膚付属器官の生理機能	体外保護作用／体温調節作用	
5		知覚作用と皮膚反射／分泌排泄作用	
		呼吸作用／吸収作用	
第20回		さ貯蔵作用/免疫・解毒・排泄作用／再生作用	

到達目標	1. 理容師・美容師国家試験(保健)合格レベルの知識習得
成績評価	期末試験 単位認定60点以上
備考	

## シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	1学年	香粧品化学	必修	40	1.3		講義	演習	実習実技
							○		
授業の概要	学科及び実技としての香粧品化学を理解できるように授業を進める。また、「衛生管理」、「保健」「理容・美容技術理論」など、他教科との関連性を付ける								
学習的	理容師・美容師として重要な意義をもつ「香粧品化学の理解と応用能力」を身に付けさせる								
教科書	日本理容美容教育センター「香粧品化学」								

## 授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	香粧品化学を理解するための基礎化学	物質の構成成分について、溶解とコロイド、酸化・還元反応等の復習	
第2回	香粧品概論	香粧品の社会的意義と品質特性	
第3回		香粧品の規制	
第4回		香粧品の安定性と取り扱い上の注意	
第5回		香粧品と安全性	
第6回	香粧品用原料	香粧品の対象となる人体各部の性状	
第7回		水性原料	
第8回		油性原料	
第9回		界面活性剤	
第10回		高分子化合物	
第11回		色材	
第12回		香料	
第13回		その他の配合成分	
第14回	ネイル、まつ毛エクステンション用材料		
第9回	香粧品まとめ I	香粧品化学の国家試験(筆記)対策問題練習	
第10回	基礎香粧品	皮膚洗浄用香粧品	
第11回		化粧水	
第12回		クリーム・乳液	
第13回		その他の基礎香粧品	
第13回	メイクアップ用香粧品	メイクアップ用香粧品の種類と剤形	
第14回		ベースメイクアップ香粧品	
第15回		ポイントメイクアップ香粧品	
第16回	頭皮・毛髪用香粧品	シャンプー剤	
第17回		スタイリング剤	
第18回		パーマ剤	
第19回		ヘアカラー製品	
第20回		育毛剤	

第19回	芳香製品と特殊化粧品	芳香製品	
		特殊化粧品	
第20回	化粧品まとめⅡ	化粧品化学の国家試験(筆記)対策問題練習	

到達目標	1. 理容師・美容師国家試験合格レベルの知識習得 2. 人の生体の成分に化学変化を与える化粧品の基本知識を習得し、その危険性について認識する 3. 化粧品化学の知識・理解を深め理容の専門家への道を拓く
成績評価	期末試験 単位認定60点以上
備考	

## シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	1学年	文化論	必修	30	1		講義	演習	実習実技
							○		
授業の概要	「日本」「西洋」の髪型、メイク、ファッションの歴史を学び、現代にどのように受け継がれ活かされているかを学ぶ								
学習的	理容・美容の文化史を学び「ファッション」について考え、コミュニケーションのツールと共に歴史を学ぶ								
教科書	日本理容美容教育センター「文化論」								

## 授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	総論	理容・美容の語義、現代社会、文化史、造形要素、仕事	
第2回	日本の理容業・美容業の歴史	理容業・美容業の発生	
第3回		江戸時代の理容業・美容業	
第4回		近代の理容業・美容業	
第5回		現代の理容業・美容業	
第6回		日本の理容業・美容業の歴史の歴史年表	
第7回		ファッション文化史 日本編	縄文、弥生、古墳時代
第8回	古代(飛鳥、奈良、平安時代)		
第9回	中世(平安末、鎌倉、室町、戦国時代)		
第10回	近世Ⅰ(戦国末、安土桃山時代)		
第11回	近世Ⅱ(江戸時代)		
第12回	近代(明治、大正、昭和20年まで)		
第13回	現代Ⅰ(1945年～1950年代)現代Ⅱ(1960年～1970年代)		
第14回	現代Ⅲ(1980年～1990年代)現代Ⅳ(2000年代以降)		
第15回	文化論まとめⅠ	文化論の国家試験(筆記)対策問題練習	

到達目標	理容・美容文化史の移り変わりを知り、お客様にファッションについてアドバイスができる
成績評価	期末試験 単位認定60点以上
備考	

## シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	1学年	理容技術理論	必修	80	2.5	○	講義	演習	実習実技
							○		
授業の概要	理容師としての心構え、理容技術の基礎理論を学び、理容技術の理解を高めて理容実習につなげていく								
学習的	科学的根拠をもとに理論を理解することで、より良い技術と心構えを持ちお客様に提供できる理容師をめざす								
教科書	日本理容美容教育センター「理容技術理論」								

## 授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	序章	理容技術理論を学ぶにあたって(理容技術)	
第2回	理容技術の基礎	人体各部の名称・技術姿勢・トレーニング	
第3回	理容と用具	理容用具・理容用具と衛生	
第4回		理容刃物	
第5回		シザーズ	
第6回		レザー	
第7回		クリッパー	
第8回		コーム	
第9回		ブラシ	
第10回		ヘアアイロン	
第11回		ヘアドライヤー	
第12回		理容技術理論まとめⅠ	理容技術理論の国家試験(筆記)対策問題練習
第13回	ヘアデザイン	ヘアスタイリングとデザイン・ヘアデザインの要素・ヘアスタイル	
第14回	ヘアカッティング	ヘアカッティングを学ぶにあたって・観測法	
第15回		ヘアカッティングの基本原則・ヘアカッティングの一般的手順	
第16回		スタンダードヘアの概要	
第17回		スタンダードヘアの用具の持ち方と操作	
第18回		スタンダードヘアの用具のカット技法	
第18回		スタンダードヘアのスタイル別カットシステム	
第20回		デザインヘア	
第21回		デザインヘアのスタイル別カットシステム	
第21回		デザインヘアカットの一例	
第23回		レディースカットの一例	
第24回	理容技術理論まとめⅡ	理容技術理論の国家試験(筆記)対策問題練習	
第25回	ヘアセッティング	ヘアセッティングを学ぶにあたって・ヘアセッティングの種類	
第26回		ヘアセッティングの実際	
第27回		レディースヘアのスタイリング	

第28回	パーマメントセット	パーマメントウェービング	
第29回		ワインディング	
第30回		コールドニ浴式パーマメントウェービングの一例	
第31回		アイアニング	
第32回		形状記憶デジタルパーマ	
第33回	理容技術理論まとめⅢ	理容技術理論の国家試験(筆記)対策問題練習	
第34回	ヘアカラーリング	ヘアカラーリングの歴史	
第35回		色彩の原理	
第36回		染毛剤の種類と原理	
第37回		染毛剤の安全性と取扱上の注意	
第38回		ヘアカラーリング技術のプロセス(おしゃれ染め)(白髪染め)	
第39回		その他の技法	
第40回	理容技術理論まとめⅣ	理容技術理論の国家試験(筆記)対策問題練習	

到達目標	理容技術は、刃物を使用する機会が多いために正確な理論を身につけて、より良い理容技術の基礎となる理論を学び、正確な技術の習得をめざす
成績評価	期末試験 単位認定60点以上
備考	

## シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	1学年	運営管理	必修	30	1		講義	演習	実習実技
							○		
授業の概要	理容・美容を運営の視点から見ていく。その視点を理解し、よいサービスを実現するため視野を広げる。また、顧客や社会のための仕事を担う責任を理解し、より有能な理容師として活躍するための大きな知恵を身につける								
学習目的	経営・マネジメントの知識を身につけ、実際に理容師として活躍していく中では、多くの事を具体的に学び、ビジネス感覚を身につけた人材を育成する								
教科書	日本理容美容教育センター「運営管理」								

## 授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	経営とは・経営者とは	経営の進め方や経営の原理	
第2回	継続が難しい理由=経営が必要な理由	現在の理美容業はどのような状況なのか	
第3回	経営とは何か？	経営・マネジメントの視点がなぜ必要か	
第4回	人という資減	理容業・美容業と労務管理	
第5回	従業員としての視点から	理容業・美容業と人事管理美容業と社会保障制度労務管理に関する知識	
第6回	サービス・デザイン1	企業の形態・美容業と料金	
第7回	サービス・デザイン2	理容業・美容業と経理、簿記と税務	
第8回	マーケティング1	なぜマーケティングを学ぶのか・マーケティングの基本的な考え方	
第9回	マーケティング2	マーケティング戦略・競争とポジショニング	
第10回	マーケティング3	理容業・美容業のためのマーケティング戦略の立て方	
第11回	顧客満足経営	顧客満足経営とはどのような経営なのか売上志向から顧客志向へ	
第12回	サービスにおける人の役割	サロンの顧客とはどのようなものかサロンの接客には何が必要か	
第13回	接客の実践1	繁盛店になるための行動を考えてみよう1	
第14回	接客の実践2	繁盛店になるための行動を考えてみよう2	
第15回	接客の実践3	接客におけるトラブル・クレームの対処法や問題点を考える	

到達目標	サロンの経営者としてビジネス・経営の観点から分析できる力を身につけます。また従業員として働く場面や将来みずからが経営者として運営するために役立つ知識とビジネス感覚を養う
成績評価	期末試験 単位認定60点以上
備考	

## シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	1学年	理容実習 (カッティング)	必修	165	5.5	○	講義	演習	実習実技
							○		○
授業の概要	カッティング技術の基礎から応用まで幅広く知識を習得し卒業後、即戦力として活躍できる人材を育成する								
学習目的	勢をしっかりと覚えてから、順序を覚える その後、時間を短縮して国家試験や営業で使える技術を身につける								
教科書	日本理容美容教育センター「実技課題集」								

## 授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	ハサミの使い方・扱い方法①	用具(シザーズとコーム)の名称を覚える	
第2回	ハサミの使い方・扱い方法②	シザーズとコームの操作を学ぶことで、安定したカットが出来るように指導する	
第3回	基本姿勢と姿勢の変化	足を開く順番と、姿勢の作り方と位置をしっかりと覚え、安定した姿勢を作ることで、正確なカットが出来ることを教える	
第4回	ハサミを使って実践カット	新聞紙を均等にカットが出来るのように切って実習を行う	
第5回	コームの持ち方・使い方	固定刈り・連続刈り・すくい刈り・指間刈りを覚える	
第6回	ブロッキング	ワインディングウイッグカット前ブロッキング	
第7回			
第8回	ワインディングカット	ワインディング用ウイッグのカット	
第13回			
第14回	ミディアムヘア実践	所定の場所にセッティングが出来ているかまたは、器具、用具が清潔かの確認(衛生状況)	
		頭を中心に、各部位の移動の仕方とそれぞれの姿勢の確認。各部位に対して、各1時間をかける	
		仕上げのウイッグを見せて、カットする長さをイメージをし、固定刈り、連続刈り、すくい刈りの位置と方向を実際に行う	
		固定刈りの起こす角度、連続刈りのコームの入れ方、すくい刈りの引き出し方の確認をする	
		前回のバックのカットを繰り返した後、サイドの仕方を教える	
		指間刈りの位置と方向を実際に見せ、引き出す角度を教える	
		クリッパーをしっかりと入れることで、その後の作業(固定刈り・ぼかし)が時間短縮につながるのを、しっかりと覚える	
		仕上げ刈りのコームの入れ方のチェック確認	
		ぼかしのコームの入れ方・使い方・角度の確認をする	
		基礎刈り・仕上げ刈り・ぼかし全体の確認	
第23回		週1ペースでカットの進み具合を確認して、実技検定試験(40分)に臨む	
第24回	デザインヘア	持ち方と操作	
第25回	ブロッキング方法	ブロッキングの取り方、使い方	
第26回			

第27回	デザインカットの基礎	ヘアデザインやヘアスタイルのカット方法を勉強する	
第28回	ワンレングスカット	バック・バックサイド・サイド・フロントのカット方法の切り方・角度の確認	
第29回		全体の仕上がりの確認	
第30回	レイヤーカット	バック・バックサイド・サイド・フロントのカット方法の切り方・角度の確認	
第31回		全体の仕上がりの確認	
第32回	グラデーションカット	バック・バックサイド・サイド・フロントのカット方法の切り方・角度の確認	
第33回		全体の仕上がりの確認	
第34回	スクエアカット	バック・バックサイド・サイド・フロントのカット方法の切り方・角度の確認	
第35回		全体の仕上がりの確認	
第36回	デザインカットまとめ	デザインカットのカット方法・総合まとめ	
第37回	ミディアムヘア(国家試験)	規定タイムで手技・仕上げ確認・改善点修正	
S		規定タイムで手技・仕上げ確認・実技検定試験(30分)	
		規定タイムで手技・仕上げ確認・改善点修正	
第55回		規定タイムで手技・仕上げ確認・実技検定試験(25分)	

到達目標	国家試験実技カッティングならびに基礎カット技術を身につけ資格取得を目指す
成績評価	期末試験 単位認定60点以上
備考	

## シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	1学年	理容実習 (ワインディング)	必修	75	2.5	○	講義	演習	実習実技
							○		○
授業の概要	構成・スタイル・形・タイム管理をしっかり習得する								
学習的	1. 巻き方を覚える 2. 時間短縮をする 3. きれいに巻く								
教科書	日本理容美容教育センター「理容実習」								

## 授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	ワインディングの原理	ワインディングの基礎知識と原理について	
第2回	使用用具類の名所・使い方	各種道具類の持ち方・使い方・各部の名所の確認	
第3回			
第4回	ブロッキングの方法	巻きやすいようにウィッグをブロッキングをして幅の取り方、ゴムの掛け方に注意し指導する	
第5回	ブロッキング	線の正確さとブロック幅の正確さ	
第6回			
第7回	ワインディング	アップステム・ロッドを巻きスライス・ステム・テンション・ゴムのねじれに注意	
第11回			
第12回		ダウンステム・ロッドを巻きスライス・ステム・テンション・ゴムのねじれに注意	
第15回			
第16回		左右の色彩がそろっているか	
第19回			
第20回		巻き方の確認。スライス・ステム・テンション・ゴムのねじれ	
第24回			
第25回	巻き方の確認。スライス・ステム・テンション・ゴムのねじれ・左右の色彩がそろっているか(期末試験30分)		

到達目標	構成と正確さをしっかり身に付けて2学年に進む
成績評価	期末試験 単位認定60点以上
備考	

## シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	1学年	理容実習 (シェービング)	必修	100	3.3	○	講義	演習	実習実技
							○		○
授業の概要	国家試験の実技課題となるシェービングは理容独自の技術であり、必須な授業となる。また、メンズシェービングの他にレディースシェービングなど幅広い技術の習得を目指してもらう								
学習的	理容特有のシェービングを基礎から学び安全な刃物の扱い方などを実習し、就職後に即戦力としてできるようにする								
教科書	日本理容美容教育センター「実技課題集」								

## 授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	道具の各部の名所	使用する道具の確認・名所の確認	
第2回	道具の持ち方	レザールの持ち方・使い方(フリーハンド・バックハンド・フッシュハンド)	
第3回			
第4回	レザールの使い方	フリーハンドと添え手の方法	
5		バックハンドと添え手の方法	
第6回		プッシュハンドと添え手の方法	
第7回	ラザールリングとブラシ	シェービングブラシの使い方と手首の使い方	
第8回	泡の塗布方法	顔面に泡を乗せて操作をする(手関節運動)	
第9回	メンズフェイスシェービング	ウイッグを使いメンズシェービングの姿勢・レザールの角度・運行・スピードの確認	
第14回		耳周りに注意しながら刃を立てないように練習を行う(右側面)	
第15回	レディースシェービング	ウイッグを使いレディースシェービングの姿勢・レザールの角度・運行・スピードの確認	
第18回			
第19回	フェイシャルトリートメント	タオルの基本的な持ち方・作業姿勢・作業位置	
		てん包法(スチームタオル)を使用し、順序・姿勢の確認を行う	
		清拭法(顔面の拭き取り作業で順序・姿勢)の確認を行う	
		クリームマッサージの塗布方法・マッサージの順番・姿勢の確認を行う	
		クリーム拭き取りの方法・順番・姿勢の確認を行う	
第26回		クリーム拭き取りの方法・順番・姿勢の確認を行う(実技試験)	
第27回	シェービング	相モデルとなりシェービングからフェイシャルトリートメントをおこなう	
第32回			
第33回	1年間のまとめ	シェービング方法・マッサージ方法・拭き取り方法の確認(期末実技試験)	

到達目標	1. 理美容師国家試験(実技試験)合格レベルの知識習得 2. 理容技術への理解
成績評価	期末試験 単位認定60点以上
備考	

## シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	1学年	理容実習 (シャンプーイン グ)	必修	54	1.8	○	講義	演習	実習実技
							○		○
授業の概要	卒業後に即戦力となれるように学習し理解することによって、実技課題の習得を目指す								
学習的	理容特有の前屈みシャンプーを実習し、理解すること								
教科書	日本理容美容教育センター「理容実習」								

## 授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回 ～ 第5回	シャンプー剤の構成成分	界面活性剤－洗浄作用、汚れをおとす	
		コンディショニング成分－きしみをなくす、毛髪保護	
		増粘剤－シャンプー液に粘度を出す	
		毛髪保護剤、湿潤剤－毛髪保護、補修	
		香料－製品の特徴づけ 防腐剤－製品の安定化	
第6回	ヘアトリートメント剤の構成成分	界面活性剤－きしみをなくす、静電気防止	
第7回		油剤－油分補給、増粘効果	
第8回	シャンプーの手順	ウイッグを使用して手順の確認	
第9回			
第10回	ウイッグでのシャンプー訓練	シャンプー剤の塗布・マッサージ	
第11回		シャワーヘッドの動かし方・後頭部の洗髪	
第12回	相モデルでのシャンプー訓練	シャンプー時の指の加減や流すタイミングの確認	
第17回		シャンプー時の姿勢や安定した体重移動の確認	
		全体に毛髪が洗えているか・シャンプーマッサージの確認(技術試験)	
第18回	総合まとめ	シャンプーの一連動作の確認	

到達目標	理容技術理論の基礎がわかり、技術として結びつけることが出来るようになる
成績評価	単位認定 出席率、授業態度、レポート等の提出で総合的評価
備考	

## シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	1学年	理容実習(カラー)	必修	51	1.7	○	講義	演習	実習実技
							○		○
授業の概要	スタイリストとしてサロンワークに直結した内容を学び、美容師としての奥深さを知る								
学習的	理容師に必要なデザインカラー技術を習得し就職後も現場で生きる技術を身につける								
教科書	日本理容美容教育センター「理容実習」								

## 授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	カラー技術の応用知識を知る	カラーのバリエーション～薬剤選定・スタイルに合わせた技術	
第2回	サロンワンレングスポブ①	薬剤選定から調合・パネルの引き出し・角度・スライス	
第3回	サロンワンレングスポブ②	カラーをいれる・スタイルに合わせての技法選定	
第4回	ラウンドグラデーションポブ①	薬剤選定から調合・パネルの引き出し・角度・スライス	
第5回	ラウンドグラデーションポブ②	カラーをいれる・スタイルに合わせての技法選定	
第6回	ミディアムレイヤーカット①	薬剤選定から調合・パネルの引き出し・角度・スライス	
第7回	ミディアムレイヤーカット②	カラーをいれる・スタイルに合わせての技法選定	
第8回	セクションカット①	薬剤選定から調合・パネルの引き出し・角度・スライス	
第9回	セクションカット②	カラーをいれる・スタイルに合わせての技法選定	
第10回	ブリーチ剤	カットスタイル～効果的ブリーチ技術を施す	
第11回			
第12回	マニキュアの発色	カットスタイル～効果的なカラー技術を施す	
第13回			
第14回	デザインカラーの発色	カットスタイル～効果的なカラー技術を施す	
第16回			
第17回	カラー技術の総合まとめ	カットスタイルによるカラーの印象を知る	

到達目標	デザインカラーを理解する→カットスタイルに合わせたカラー技術を施術できる
成績評価	単位認定 課題提出
備考	

## シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	1学年	特別教育授業		70	2.3		講義	演習	実習実技
							○		○
授業の概要	理容・美容の現場で活用できる外国語やヘアデザインに必要なデッサン・ヘアスタイル画の描き方の習得、身体機能や運動機能を学ぶ体育活動を通して幅広い知識を学ぶ								
学習目的	理容・美容の現場で増えつつある、外国人のお客様へのコミュニケーションの習得やお客様からの要望を叶えるためのデッサン力の習得、また体育活動を通して幅広い知識を学ぶ								
教科書	日本理容美容教育センター「外国語」								

## 授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	外国語	自分について話そう(好き・嫌い)	
		あいさつ(英語の時制)	
		お客様を迎える(丁寧表現)	
		電話での接客(電話の英語)	
		コンサルテーション(髪質の表現)	
		シャンプー&トリートメント(英語の発音)	
		ヘアカット(カットの技術)	
		パーマ(現在完了形)	
		ヘアカラー(色彩の表現)	
		仕上げ(長さや温度)	
		お会計(チップの基本)	
		クレーム対応(混乱を避ける)	
		海外研修旅行(街での英語)	
		サロンの現場から(メイクアップ・ネイルケア・シェービングと衛生・和装着付けと写真撮影)	
第8回		理容師・美容師のための「和英表現集」	
第9回	体育	炊事遠足、スポーツ等を通してチームワーク、コミュニケーション能力を養う	
		球技、運動を通してチームワーク、コミュニケーション能力を養う	
		校内技術大会等を通して技術の向上、競争力を養う	
第14回			
第15回	美術	鉛筆の持ち方、グラデーションの表現	
		球体、円柱を描く	
		顔のパーツを描く	
		雑誌等のモデルの模写	
		雑誌等のモデルの模写	
第20回			

第21回	福祉理美容士	福祉とは／ノーマライゼーション／高齢者福祉制度の概要／介護保険制度／地域包括ケアシステム／高齢者に関わる職種	
第22回		障がい者福祉制度の概要／地域生活支援事業／医療保険制度／児童福祉制度	
第23回		福祉理美容とは／福祉理容士・福祉美容士としての職業倫理／福祉理美容の基本理念／訪問理容対象のお客様を取り巻く環境	
第24回		お客様の状況に応じた個別対応／訪問理容を行う事前準備／訪問先での注意点／お客様への配慮／福祉理容現場のリスクとは／リスクマネジメント	
第25回		障がいと病気への理解／加齢に伴うからだところの変化／高齢のお客様のこころとからだ／障がいのあるお客様の留意点／障がいの種類／特定し疾病について	
第26回		認知症とは／認知症の種類と特徴／認知症の方への対応／医学と医療／健康と病気	
第27回		感染／感染症について／免疫・自己免疫／消毒の方法／バイタルサイン／ターミナルケアとは／福祉理容師の役割	
第28回		正しい手洗いの仕方。チェッカーマシンできちんと洗われているかを確認する	
第29回		お客様から熱い、寒いなど言われた場合の借脱方法を知る	
第30回		杖を使われているお客様がどのように歩行されているのかを学ぶ	
第31回		理容・美容現場においてお客様を施術場所に誘導する	
第32回		車いすで理容・美容サービスを行えるように車いすの名称・扱い方の基本と知識を身に付ける	
第33回		移動式を正しく行えるように手順を覚える。極力、水を最小限に抑える	
第34回			
第35回		練習問題を行い試験範囲を学習する	

到達目標	海外研修旅行での英会話でのコミュニケーション能力の習得とヘアデザイン画の作成 【福祉理美容】日本理美容福祉協会・福祉理美容士養成講座 テキスト1・2 筆記試験合格基準に到達する
成績評価	単位認定 出席率、授業態度、レポート等の提出で総合的評価 【福祉理美容】日本理美容福祉協会「準福祉理美容士検定試験」習得を目指す
備考	

## シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	1学年	スペシャル授業		110	3.7		講義	演習	実習実技
							○		○
授業の概要	理容師・美容師の技術で身だしなみを整えQOLの向上に繋げ、お客様の尊厳を守り、その人らしさを出し、生活の支えになるように心がける。								
学習的	理容室・美容室に来店が難しい方への訪問サービスを提供する。								
教科書	日本理美容福祉協会・福祉理美容士養成講座 テキスト1・2								

## 授業計画

回	主題	授業内容	備考
<b>【福祉理美容】</b>			
第1回	福祉の基本的理論・社会福祉制度／高齢者福祉制度	福祉とは／ノーマライゼーション／高齢者福祉制度の概要／介護保険制度／地域包括ケアシステム／高齢者に関わる職種	
第2回	障がい者福祉制度／その他の制度	障がい者福祉制度の概要／地域生活支援事業／医療保険制度／児童福祉制度	
第3回	福祉理容とは／訪問理容の現状	福祉理美容とは／福祉理容士・福祉美容士としての職業倫理／福祉理美容の基本理念／訪問理容対象のお客様を取り巻く環境	
第4回	訪問時の基本的留意点／福祉理容のリスクマネジメント	お客様の状況に応じた個別対応／訪問理容を行う事前準備／訪問先での注意点／お客様への配慮／福祉理容現場のリスクとは／リスクマネジメント	
第5回	障がい・病気と認知症の理解／障がい・病気の種類と留意点	障がいと病気への理解／加齢に伴うからだところの変化／高齢のお客様のこころからだ／障がいのあるお客様の留意点／障がいの種類／特定し疾病について	
第6回	認知高齢者の理解と対応／医療の基本的理解と感染・消毒について	認知症とは／認知症の種類と特徴／認知症の方への対応／医学と医療／健康と病気	
第7回	感染と予防策／ターミナルケア	感染／感染症について／免疫・自己免疫／消毒の方法／バイタルサイン／ターミナルケアとは／福祉理容師の役割	
第8回	感染と予防策	正しい手洗いの仕方。チェッカーマシンできちんと洗われているかを確認する	
第9回	衣服の着脱	お客様から熱い、寒いなど言われた場合の借脱方法を知る	
第10回	杖歩行の介助	杖が使われているお客様がどのように歩行されているのかを学ぶ	
第11回	視覚障害者の介助	理容・美容現場においてお客様を施術場所に誘導する	
第12回	車いすの扱い方	車いすで理容・美容サービスを行えるように車いすの名称・扱い方の基本と知識を身に付ける	
第13回	移動シャンプーイング	移動式を正しく行えるように手順を覚える。極力、水を最小限に抑える	
第14回			
第15回	試験対策	練習問題を行い試験範囲を学習する	
<b>【着付け】</b>			
第1回	着物・帯の種類・小物	名称を覚える。TPOに合わせる	
第2回	着物のたたみ方	本たたみ・夜具たたみ・長襦袢のたたみかた	
第3回 ～ 第5回	着付けの一般的要領	着物の着付け方、帯の結び方等、年齢・体型を考慮して着付けを行う	

到達目標	【福祉理美容】日本理美容福祉協会・福祉理美容士養成講座 テキスト1・2 筆記試験合格基準に到達する。 【着付け】体の線をいかし、上品に年齢に応じた着付けをする。
成績評価	【福祉理美容】日本理美容福祉協会「準福祉理美容士検定試験」習得を目指す。 【着付け】単位認定 課題提出
備考	

## シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	1学年	接客・接遇		30	1		講義	演習	実習実技
							○		○
授業の概要	社会人に求められる常識的な心得を十分理解させ、マナーに対する知識、態度、技能を身につけさせる								
学習的	社会人になる前の最終学校として、節度ある学生を育成し、即戦力として活躍できる人材を育てる								
教科書	オリジナル資料「サロンワーク」								

## 授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	接客・接遇の知識	接客とは何か、接遇との違いを説明	
第2回	ジョブカフェ(青森県若年者就職支援センター)	就職における仕事理解・進路の進め方	
第3回	サロンでの実習	受付、応対、マナーの練習と実地訓練	
第4回	サロンでの実習	相モデルでの接客訓練	
第5回	地域ボランティア	地域清掃、青森マラソン(給水活動)等	
第6回			
第7回 ↓ 第9回	施設でのハンドマッサージ	地域施設での課外授業(ハンドマッサージ)	
第10回 ↓ 第11回	赤十字ボランティア炊き出し訓練	地域赤十字団との合同炊き出し訓練	
第12回	サロンでの実習	受付、応対、マナーの練習と実地訓練	
第13回	サロンでの実習	相モデルでの接客訓練	
第14回	施設でのハンドマッサージ	地域施設での課外授業(ハンドマッサージ)	
第15回	まとめ・総合	接客・接遇・ボランティアのまとめ	

到達目標	マナーや接客業の知識とボランティア活動を通して節度ある人材に育成しているか判断する
成績評価	単位認定 出席率、授業態度、レポート等の提出で総合的評価
備考	

## シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
理容科	1学年	総合技術		90	3	○	講義	演習	実習実技
							○		○
授業の概要	基本的技術を基に、さらに発展した高度な技術を習得するとともに、最新技術の習得を目指す。集大成としてヘアショーを開催し観客に披露する								
学習的	高度な技術を習得するとともに、最新技術の習得を目指す。チームでのコミュニケーション、協調性を養う								
教科書	オリジナル資料「過去のヘアショーの資料、DVD」等								

## 授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	メイク①	ヘアショー用舞台メイク・モデルを決めてメディア等で参考資料をそろえる	
第2回	メイク②	ヘアショー用舞台メイク・テーマに沿ったデッサン画を作成	
第3回	メイク③	ヘアショー用舞台メイク・モデルにメイクを施す	
第4回			
第5回	ネイル①	ヘアショー用舞台ネイル・テーマに沿ったデッサン画を作成	
第6回	ネイル②	ヘアショー用舞台ネイル・ネイルチップのファイリング	
第7回	ネイル③	ヘアショー用舞台ネイル・ネイルチップのカラーリング	
第8回			
第9回	セット①	ヘアショー用舞台セット・テーマに沿ったデッサン画を作成	
第10回	セット②	ヘアショー用舞台セット・テーマに沿ったスタイリングの練習	
第11回			
第12回	セット③	ヘアショー用舞台セット・セットの完成	
第13回	カラー①	ヘアショー用舞台カラー・テーマに沿ったカラーリングを決め、ブリーチ等の施術	
第14回			
第15回	カラー②	ヘアショー用舞台カラー・テーマに沿ったカラーリングを施術	
第16回			
第17回	ファッション①	ヘアショー用舞台ファッション・テーマに沿った衣装のデッサン、選定	
第18回			
第19回	ファッション②	ヘアショー用舞台ファッション・テーマに沿った衣装の決定	
第20回			
第21回	振り付け	テーマに合った、ウォーキング等の確認	
第22回	映像、音楽	テーマに沿った、映像、音楽の選定、作成	
第23回			
第24回 ↓ 第26回	舞台	演出、装飾、舞台セット	
第27回	写真	モデルのスチール写真撮影	
第28回 ↓ 第30回	ヘアショー	集大成としてヘアショーを開催し観客に披露	

到達目標	集大成としてヘアショーを開催し観客に披露
成績評価	単位認定 出席率、授業態度、レポート等の提出で総合的評価
備考	